

# 車いす・高齢者疑似体験講習会

**【日時】** 令和5年11月22日(水) 13:30~15:00(90分)  
**【会場】** 岩見沢広域総合福祉センター 研修室1・2・3  
**【目的】** 福祉体験学習におけるボランティア派遣に伴い、  
 車いすの操作方法や高齢者疑似体験セットの使い方を再確認する  
**【講師】** 社会福祉協議会 栗沢サービスセンター 係長 山崎氏、介護員 佐藤氏  
**【参加者】** 6団体 21名  
**【内容】**

前半は話し上手な山崎係長から車いすの操作説明を受け参加者2人でペアになり車いす(押す側、押される側)でコースを体験しました。腕の力だけでなく体全体を活用することが重要とのこと。  
 後半は片ひざ関節・腕関節を固定するセットの付け方の説明を受け、参加者もこのセットを装着しました。さらに足に重りも付けてコースを歩き高齢者疑似体験を実施しました。高齢者はもとより事故や病気等により片麻痺の方の移動の苦勞を実感しました。



車いすの操作説明中



実際に押してみます



高齢者疑似体験中

## ～ ボランティアの窓 (vol.3) ～

今回は、岩見沢手話の会と岩見沢市点訳赤十字奉仕団をご紹介します！せっかくだから、覗いていきませんか？

### No.5 岩見沢手話の会



毎週火曜日活動中

### No.6 岩見沢市点訳赤十字奉仕団



市内小学校での点訳体験



ボランティアに関する相談は、ボランティアコーディネーターがお受けします。  
 あなたも、ボランティア活動に参加してみませんか？  
 連絡をお待ちしております。  
 ★土・日・祝日はお休みです。

☎ 25-5516

## ボランティアセンター情報

2024・3 発行 NO. 67

# おもいあい

〒068-0031 岩見沢市11条西3丁目 岩見沢広域総合福祉センター  
 岩見沢市ボランティアセンター TEL・FAX 25-5516  
 岩見沢市社会福祉協議会 TEL 22-2960



新年早々の能登大地震、羽田空港での火災と大波乱の幕開けになりました。犠牲者、被災者の皆さんには哀悼の意を表し、またお見舞い申し上げます。何時どこでこのような悲惨な災害が起きてもおかしくない状況です。日頃からの備えの大切さを実感したところです。  
 例年より雪も少なく、2月には異常な温かい日もあったりなど、何か地球温暖化？を懸念させる今冬でした。また、昨年のような灼熱の夏になるのでしょうか？子どもや孫世代の時代にできるだけ異常気象などで苦慮することがないように、今からでも温暖化防止政策が望まれるし、また私たち個人一人一人が取り組めることを実行に移していくことが大切かもしれませんね。

## ボランティア活動者研修会

**と き** 令和6年3月1日(金) 13:30~15:30  
**と ころ** 岩見沢広域総合福祉センター  
**主 催** 岩見沢市社会福祉協議会・ボランティアセンター  
**講 話** 「DVと虐待～人権擁護委員としての取り組み～」

**講 師** 岩見沢人権擁護委員協議会  
 会 長 藤田政利氏  
 男女共同参画委員長 山宮輝美氏  
 男女共同参画委員 干場幸宏氏  
 小原康子氏  
 札幌法務局岩見沢支局 遺言書保管官 居城美佐子氏



**内 容**  
 ①人権とは  
 ②人権擁護委員とは  
 ③人権擁護委員の活動について  
 ④DVと児童虐待について  
 ⑤DVと児童虐待の実態  
 ⑥暴力の連鎖を断ち切る取り組み  
 ⑦中・高・大学における「デートDV講座」

参加者 53名



### 参加者の感想

●人権擁護委員の方の活動を知り、大切な存在であることを実感しました。高齢者にもDVの体験者が多いことも頷けます。生きてきた時代、環境は中々変えられないのも大きな要因です。本当に若い人たちにこそ啓発が必要ですね。応援しています。  
 ●まずは、自分の声をしっかり聴く事が自分の心を大事にすることだと改めて思いました。そして、それが相手を理解する第一歩になることにつながると思いました。  
 ●色々なDVがあるのだと思いました。子どもの頃から、人権を考える機会があれば、少しでも悲しい事件が減るのでは？と思いました。地道な活動、頑張ってください。  
 ●人権擁護委員の活動内容や相談先など詳しく説明して頂きましたので、今後身近な人から相談を受けた場合には役立てていきたいと思いました。  
 ●相手を思いやる会話、お話を上手に聞けるようになりたい、また自分の気持ちをしっかりと伝えることが大事だと再認識させてもらいました。ありがとうございました。

# 令和5年度 福祉体験学習

小・中・高等学校からの福祉学習の要請に応じ、障がい当事者等を講師とし、ボランティアの協力を得て延べ25件1,086人を対象に車いす体験と利用者との交流や聴覚障がい者の講話と手話体験の他、視覚障がい者の講話とガイドヘルプ体験・点訳体験、高齢者の身体の変化についての講話と高齢者疑似体験を実施しました。これらを通じ、ノーマライゼーションの理念普及に努めました。

令和5年度 実施実績	
車いす体験	6件
手話体験	8件
ガイドヘルプ体験	5件
点訳体験	2件
高齢者疑似体験	3件
その他	1件

**【高齢者疑似体験】**  
 ☆高齢になり、見えにくい、聞こえにくい、歩きにくい等の状態を、ゴーグルやサポーター等の装具を付けて、階段の上り下りをする。軍手をはめ小さい物を掴む☆  
**【感想】**〇年齢が高くなると、手足が曲がりづらかったり体が動きにくくなるのがわかりました。今度から積極的に高齢者の手助けとかをやりようと思いました。



**【車いす体験】**  
 ☆スロープ・悪路・段差等を、車いすに乗り押しってもらう。乗せて押す☆  
**【感想】**〇もし車いすに乗っている人を見かけたら、教えてもらった事を活かして助けたいです。〇車いす体験でわかったことは、色々な事を諦めないといけない事、車いすならではの楽しみもある事がわかりました。



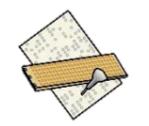
**【ガイドヘルプ体験】** ☆アイマスクと白杖で階段や狭い場所等をガイドの誘導で歩く☆  
**【感想】**〇体験をして目が見えない人はこういう感じなんだなと思いました。これからは白杖を上げている人がいたら、駆け寄って声をかけたいと思いました。〇ガイドが上手に誘導してくれたら、目の不自由な人も生活できるという事がわかった。



**【手話体験】** ☆手話で日常の簡単な言葉や自己紹介を学び、手話で歌を歌う☆  
**【感想】**  
 〇聴覚障がいの方とたくさん会話することは今の私には難しいですが、最初から諦めるのではなく、少しでもチャレンジする事を大切にしたいです。〇手話があるからといって、それだけで成立するのではなく、表情も大切という事がわかりました。



**【点訳体験】** ☆点字で名前や単語、文章を書き、講師に読んでもらう☆  
**【感想】**  
 〇点字は最初どうやって打つかわからなかったけど、やってみたらとてもたのしかったです。もし目が見えない人に会ったら助けてあげます。〇家やお店で点字を見つけたら読んでみます。



# 令和5年度 指定地域福祉教育セミナー

日時 令和6年2月9日(金) 14時00分～16時30分  
 会場 岩見沢広域総合福祉センター 後援 岩見沢市教育委員会  
 参加者 16名



**【目的】** 次世代を担う子どもたちの福祉・ボランティアに対する関心と理解を高めるため、学校や教育委員会、福祉関係者と連携を図りながら、様々な福祉体験やボランティア活動等の福祉教育の取り組みを推進します。そのため、福祉教育に関する今後の在り方や方向性等について研修・協議を行い、福祉教育の充実を図ることを目的としています。

**【実践発表】**  
 「指定校としての福祉の学習、ボランティア活動」  
 発表校 岩見沢市立第二小学校 教諭 岡 和輝 氏  
 岩見沢市立東光中学校 教頭 中井一徳 氏



**【講話】** 「私と手話の出会い ～手話の必要性～」  
 講師 岩見沢ろうあ協会 会長 山名 千鶴子 氏

札幌ろう学校幼稚園に入り、毎日口話発声の練習をしました。当時、手話は禁じられていました。社会に出ると健聴者に合わせるため、口話が必要で手話を使うと口話が妨げになるからです。しかし、社会に出てみると、学校で覚えた発音で話しても全く通じなく、健聴者は口の開け方が小さく、話すのが早いので何を言っているのか読み取れずショックだったことを覚えています。最近は手話に対する理解も増え、手話は言語であること、ろうあ者にとって手話は命であることを当たり前を受け止めてもらえる社会になりつつもあり、大変うれしく思います。目で見る視覚的な言語である手話は「手や身体、表情」で表し、「目」で見て理解する言葉です。手話は、手だけでなく、眉、目、口、鼻、頬、身体の動きによって1つ1つ意味が違うので顔を見ることが大事です。



手話通訳 手話サークル「エブロン」  
 越前 ゆり子 氏 ・ 林 倫子 氏

**【手話体験】**  
 ・指文字(五十音と濁音・半濁音)、自己紹介(自分の名前や人の名前を手話で表現)  
 ・手話単語を覚える(おはよう、こんにちはなど)  
 ・ジェスチャーゲーム ・手話コーラス「上を向いて歩こう」



**【感想】**  
 ・手話の方法(伝え方)が一つでないことに驚いた。基本的な手話方法を学ぶことができて良かった。先生が楽しく教えて下さることで学ぶ側も楽しめた。  
 ・演習を主にした内容の濃い時間でした。今後の福祉の学習について参考になるものでした。  
 ・実際に手話が認められるようになったのがあまりにも最近であることに驚き、これまでのご苦労を初めて知りました。今後ろうあ者の方々にも安全が保証される社会であること、手話が身近である社会となることを願い、私自身も学び続けたいと思いました。

手話で名前を表現